

迷惑を かけ続ける 私のための願い

『維摩経』という經典には蓮の花がどのような場所に咲くのが説かれています。そこには「譬如高原陸地不生蓮花 卑湿淤泥乃生此華（高原の陸地には蓮華を生せず 卑湿の淤泥にすなはち蓮華を生ず）」とあります。蓮の花は高原の澄んだ空気のもとでの陸地では咲かず、底の見えないような泥沼の中に深く根を下ろし、その泥を養分にして成長して水面で泥に汚れることなく美しく花を咲かせるのです。

いま私たちが生きていく世の中は高原の澄んだ空気のようなイメージでしょうか？それとも歩くと底の泥が舞い上がる濁った泥沼のようなイメージでしょうか？日々のニュースなどを見聞きしていると不条理な出来事が沢山あり、悲しい事件もたくさんあります。底の見えない泥沼のような世の中であると考えられる方が多いかと思えます。蓮の花は泥沼の中に根を張り成長して、やがて水面に泥に汚れることなく美しい花を咲かせます。お念仏をいただく私たちも泥沼のような混沌とした



世の中で煩惱をたくさん抱えながら生活し、命終えるときに阿弥陀様のおはたらきによってお浄土に生まれ行き、清らかな悟りを得ることができると歩んでいきます。

今まで誰にも迷惑をかけずに生きてきたという人は誰一人いません。私たちは多くの人と関わりながら、ある時は助けあい、またある時は迷惑をかけて今まで生きてきました。阿弥陀仏の救いの対象は迷惑をかけてしか生きていくことのできない私です。その私に阿弥陀様は「必ず救う われにまかせよ」といつも心配し、呼び続けて下さっています。迷惑をかけたまま生きていく私ですが、阿弥陀様や周りの人たちに感謝し念仏申す人生を歩んでいきましょう。

限りなき光と寿（いのち）の仏

阿弥陀如来がさとりを開く前、法蔵菩薩であったとき、すべてのものを救うため、限らない光と寿をそなえた仏になろうと誓われた。そして果てしない修行の末に、その願いを成就して、如来となられた。

阿弥陀とは無量をあらわす。阿弥陀如来は、その限らない光をもって、あらゆる世界を照らし、私たちを撰（おき）め取ってください。その限らない寿をもって、あらゆる時代を貫き、私たちを救いってください。

親鸞聖人は仰せになる。

十方微塵世界（じつぽうみじんせかい）の
念仏の衆生（しゆじょう）をみそなわし
撰取（せつしゆ）してすてざれば
阿弥陀となづけたまつる

たとえ私たちがその救いに背を向けようとも、撰め取って捨てないと、どこまでもはたらき続ける仏がおられる。その仏を、阿弥陀如来と申し上げるのである。」 『拝読 浄土真宗のみ教え』より